

小児期の病気や症状 2

よく見かける感染症

- ① インフルエンザ・・・ 普通の風邪より症状がひどく、いきなり高熱や咳、全身倦怠感が見られる。また、筋肉痛、消化器症状なども見られる。感染して24～48時間以内に症状が現れる。A型、B型があるが、特に症状から見分けが付きません。
- ② 嘔吐下痢症（ウイルス性）・・・ ノロウイルス、サポウイルス、アストロウイルスなどの比較的症状の軽いもの、ロタウイルス、アデノウイルスなどの症状が強いものなどがある。典型例では、突然の吐き気、続いて水のような下痢（レモン色から白っぽい便）になり、熱が出ることもある。一週間くらいで治まり、特効薬はありません。
- ③ 細菌性腸炎・・・ カンピロバクター（汚染されたトリ）、サルモネラ（汚染された卵やミドリガメ）、病原性大腸菌、黄色ブドウ球菌などの細菌によって起こる胃腸炎です。発熱、腹痛、下痢、嘔吐が見られる。血便や粘膜便などが見られ、ときに重症になる。治療には抗菌薬を使用。
- ④ おたふくかぜ・・・ ウイルス感染で耳の下（耳下腺）や顎の下（顎下腺）などが両方もしくは片方腫れ、1週間から10日ほど腫れが続きます。潜伏期間は2週間で、いきなり腫れと痛みで発症し、熱が2～3日出ることもある。腫れが引くまでは人に伝染します。
- ⑤ ヘルパンギーナ・・・ 夏に流行するウイルスによる病気で、夏かぜの一種。いきなり高熱が出て2～3日続く。口蓋垂（のどちんこ）の脇に口内炎ができるため食欲が落ちます。
- ⑥ 手足口病・・・ 夏に流行するウイルスによる病気で、ヘルパンギーナの親戚にあたる。頬の内側や舌に口内炎ができ、手のひら、足の裏、ひざやお尻にぶつぶつができます。熱が出る場合もある。
- ⑦ ヘルペス性歯肉口内炎・・・ ヘルペスウイルスの感染で起こり、高熱が2～4日ほど続き、口の中に口内炎ができ、歯ぐきが腫れて出血しやすくなる。痛みがあり食欲がなくなり、脱水症状を起こすこともある。炎症は1週間程続く。
- ⑧ 伝染性紅斑（リンゴ病）・・・ ウイルス性でほっぺたが赤くなり、腕や太ももに網目状の赤い発疹が見られる。
- ⑨ はしか（麻疹）・・・ 予防接種のおかげで大流行することは少なくなっているが、かかるととても恐い病気です。最初のかぜの症状で、しだいに高熱となり4～5日目で身体にぶつぶつができ、気管支炎や肺炎を合併することもある。
- ⑩ 風疹・・・ 「三日ばしか」ともいわれるが、はしかとは全く異なります。典型的には、熱と発疹が同時に出て3～4日続く。妊婦がかかると、生まれてくる赤ちゃんに障害がでる場合があるので予防接種をしてかからないようにします。
- ⑪ 水痘（水ぼうそう）・・・ 水ぶくれをもった赤い発疹がいきなり身体のいろいろな所にできる。ウイルスによる感染症で潜伏期間は2週間。
- ⑫ 溶連菌感染症・・・ 溶連菌という細菌によって起こる感染症で、のどが痛くなり、発熱し、手足、身体に発疹が出ることもある。しだいに舌がイチゴのようになる。腎炎やリウマチ熱を起こすこともあるので抗菌薬を10日ほど飲む必要がある。
- ⑬ プール熱（アデノウイルス感染症）・・・ アデノウイルスによる感染症で、目が充血し、のどが腫れ高熱が4～5日続く。夏にプールを介して学童の間で流行するので「プール熱」と言われますがプールに入らなくてもうつりますし、夏以外でも見られる。
- ⑭ マイコプラズマ肺炎・・・ マイコプラズマという病原体によって起こる肺炎で、幼児、学童に多く見られる。咳が強い病気で微熱の出る場合もある。

